

バタフライ効果

2025.7.1

「北京で蝶々が羽ばたくと、ニューヨークでハリケーンが起こる」そんなことはないだろうと思うのが当然である。だが、実際にこのような言葉が存在する。「バタフライ効果」と呼ばれるものである。

非常に小さな出来事が、最終的に予想もしていなかったような大きな出来事につながることを意味する。このバタフライ効果の考え方とは、将来起きることを正確に予測することは不可能であることを示している。

その一方で、より能動的に、個人の生き方や人生、あるいは仕事において生かすこともできる。自分自身が身のまわりで起こす小さなアクションが、より大きな動きにつながり、結果として大きな変化を社会にもたらす可能性を読み取ることができる。

ノーベル賞化学者であるイリヤ・プリゴジンが、一つの言葉を遺している。

システム内の小さなゆらぎが、システム全体の大きな変動をもたらす。

未来学者であるアルビン・トフラーは、『戦争と平和』という著書の中で、世界はプリゴジン的性格を帶びつつあるとし、世界の片隅での小さな紛争が、世界全体を巻き込む大戦争を引き起こす可能性があることに警告を発した。

確かに、現在の世界情勢を見つめ、このトフラーの予言を思い起こすとき、ゆらぎという言葉に、言い知れぬ不安を覚える。しかし、このゆらぎという言葉をさらに深く見つめるとき、そこに一つの希望があることに気がつく。

それはどんなことか。我々が生きるこの世界において、もし本当に小さなゆらぎが大きな変動をもたらすことが起こるのならば、以下のことも起こるはずである。

一人の社員が、企業に革新をもたらす。一人の起業家が、市場を大きく進化させる。一人の教員が、学校を変える。一人の子どもが、クラスを変える。一人の住民が、地域を変える。

他にもあるだろう。もし、そうであるならば、今、求められているのは、自らが、そのゆらぎとなる小さな勇気なのかもしれない。